

Let's TANQ 便り

「探究2.0」共創実践コミュニティの拡大に向けたニュースレター

東京学芸大学 高校探究プロジェクト

2026年度 数学科 授業研究ワークショップ 全体会【第1回】

2026年5月9日（土）15:00~17:00

本ワークショップは、高校数学における「探究的な学び」の実現に向けて、全国から集まった教員が複数のチームに分かれ、授業研究のサイクルを回しながら、継続的に学び合う実践コミュニティです。2026年度は、新たに1チームを加え、計11チーム（A~K）で活動を展開します。

5月9日に開催した全体会の冒頭で、高校探究プロジェクト特別顧問の長尾篤志先生より、「本プロジェクトの数学チームは200名を超える規模となり、5年前から継続されている方も、今年初めての参加の方もいらっしゃいます。研究授業そのものだけでなく、指導案検討や研究協議を通じ、**生徒に何を残したいのかを問い続けながら、探究的な学びをともに創り上げていきましょう**」とご挨拶いただきました。

続いて、「授業研究」に向けたため線合わせとして、西村リーダーより、探究的な学びを支える授業デザインや単元設計について、「わかる・できる」というプロダクトだけでなく、**生徒が理解を更新し続けるプロセスをどのようにデザインするかが重要**であること、また、生徒の思考を予想しながら問いや学習場面を設計していく視点が共有されました。さらに、「探究的な学びをする時間がない」という課題に対して、「Teach less, learn more」の考え方をもとに、**戦略的な単元設計や、生徒の理解を、雪だるまを大きくしていくように、少しずつ、連続的に更新していくような授業デザインの重要性**について確認しました。

その後、チームごとのブレイクアウトルームに分かれ、新旧メンバーが自己紹介をしながら、チームリーダーや日程調整係といった役割分担、そして研究授業者の選定、年間のスケジュールなどを検討しました。各チームで、西村リーダーの話や昨年度の振り返りをもとに、対話を通して、下記のようなテーマが設定され、今年度も活気ある学びの場がスタートしました。

開催報告

「授業研究」を“授業づくり”から“学びづくり”へアップデート

◆戦略的な単元設計

- ストーリー性と重み付け: 単元全体を貫くストーリー（問い）を考え、どこを厚くやり、どこを軽くするかという「重み付け」を行う。
- “Teach less, learn more”: 教えることを重点化し深く学ばせることが、結果的に、生徒の学びが多くなる。

◆授業研究のバージョンアップ

- 単元設計からスタート: 「研究授業の日程ありき」から脱却し、まず「**数学教育観・生徒観**」に基づいた「**単元設計**」からスタート。「この単元で何が大切か」から議論する。
- 事後協議の論点の設定: 指導技術の良し悪しではなく、「**個々の生徒にどのような理解の更新が生じたか（生じなかったか）**」を発問、問題、単元計画と遡る契機となる論点を設定することが重要。

授業研究のアップデートを楽しみながら、日常の授業に溶け込む探究を創りつつ、授業研究コミュニティとしての成長も目指します。


高校探究プロジェクト数学班メンバー

<p>長尾 篤志</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京学芸大学特命教授 数学班リーダー 2024~D・E・Kチーム担当 	<p>西村 圭一</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校探究プロジェクトリーダー 各チームの統括 2025~Jチーム担当
<p>清野 辰彦</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京学芸大学教授 2024~Fチーム担当 	<p>成田 慎之介</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京学芸大学准教授 2024~Hチーム担当
<p>花園 隼人</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮城教育大学准教授 2024~Bチーム担当 	<p>夏原 智史</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京都立西高等学校勤務 2024~Cチーム担当
<p>野島 淳司</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京学芸大学附属国際中等教育学校勤務 2024~Gチーム担当 	<p>中逸 空</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道教育大学札幌校准教授 2024~Aチーム担当
<p>石橋 一昂</p> <ul style="list-style-type: none"> 岡山大学講師 2025~Iチーム担当 	<p>山田 誠司</p> <ul style="list-style-type: none"> 大分県立大分高等学校校長 2026~Cチーム担当

<研究テーマ>（抜粋）

- 生徒が主体的に数学を探究するための単元デザインと教材づくりのあり方
～生徒が考えたいくなる、議論したいくなる授業～
- 生徒が主体的に数学的活動を遂行する授業づくり
～単元を通した問いの明確化と生徒の問いを重視して～
- “Teach less, learn more”を実現する戦略的な単元計画に基づく実践～生徒が思考している顔が見える授業～
- 生徒が問いを持ち追究するための教師の直接的・間接的な支援～高校数学の単元・授業デザイン～
- 多様な生徒が問い、対話し、振り返りながら、授業と授業をつなぐ単元デザイン

大分県指導教諭連絡会議 2026.5.8



校内授業研究会における事後協議会のあり方

東京学芸大学高校探究プロジェクト
西村 圭一・藤村 祐子

生徒の学びを最大化する授業研究会の実現に向けて

5月8日（金）、大分県教育庁高校教育課と高校探究プロジェクトによる「校内授業研究会の事後協議会のあり方」をテーマとしたワークショップ型研修会を開催しました。

まず、アイスブレイクとして、小学校算数の授業映像を題材に、事後協議会における「論点設定」、すなわち協議会で問うべき問いの立て方について、チームごとに対話の場をもちました。その後、授業研究会は単なるイベントではなく、授業の対象となる「生徒たちの学びを最大化する」ために、どのような目標を設定し、どのような教材で、どのように思考を促すかを探究する営みであることを確認しました。

続いて、教師役グループと生徒役グループに分かれ、問題に取り組む生徒役グループの様子を、教師役グループが観察・記録するワークを実施し、その内容をもとに、再度、「論点設定」について協議しました。

参加者は、アイスブレイク時の協議内容と比較しながら、授業目標に照らして生徒の思考過程を観察することや、協議会における「論点設定」の重要性について確認しました。また、校内に授業研究を根付かせる上では、個々の教師が、授業研究を通じた教師の学びの「メカニズム」を実感できるようにすることが鍵であり、そのための「振り返り」のあり方についても理解を深めました。

研修の締めくくりでは、OECDの「ティーチング・コンパス」の概念に基づき、教師自身の「Being（自分らしい専門職としての在り方）」「Belonging（つながり・所属感）」「Becoming（成長・変容）」という3つの視点から、授業研究会が、教師が互いの専門性を高め合い、アイデンティティを確立する専門職コミュニティの「共育の場」として機能させるという意義を確認しました。

参加者からは、「以前から事後研修会の在り方には課題意識をもっていたので、大変参考になった」「今回の研修内容をアレンジして、校内研修にも取り入れたい」といった声が寄せられました。

本研修は、研究授業や事後協議会が単なる授業評価の場ではなく、「子どもたちの未来を見据え、めざす生徒像を共有しながら、教師自身も学び続ける場」になることを再認識する機会となりました。



本ワークショップの様子を記録・編集した動画を作成しています。校内研修や授業研究会等での活用をご希望の場合は、高校探究プロジェクト事務局までお気軽にお問い合わせください。

開催案内

東京学芸大学 高校探究プロジェクト

「探究2.0」イマージョンワークショップ


多様な嗜好・志向や得手不得手をもつ人が集う学校教育で行うからこその探究、対話志向で、他者に聞かれた「探究2.0」の共創を体感しませんか。

研究の共創 in Summer 2026

2026年6月28日(日)
14:00～16:00開催!

形態：Zoomによるオンライン
対象：全国の高等学校教員、各都道府県教育委員会指導主事等、教員志望の大学生・大学院生等

※「探究の共創」イベントへの参加を希望されている方にご参加ください。



「探究2.0」の基盤となる「ミニ探究」を体験するワークショップ

イマージョンとは、参加者がその場の対話や活動に深く入り込み、当事者として体験しながら学びを得ていくアプローチです。本ワークショップでは、対話から始まる「ミニ探究」に没入する体験を通して、「探究2.0」の本質を実感的に捉え直します。改めて「探究2.0」とは何かを問い直し、高校における探究活動のアップデートへとつなげていく機会にします。

「探究の共創」イベントにもつながりますので、イベントへの参加・発表を検討されている方はご参加ください。

<https://g-tanq.jp/crosscurriculum#immersion>

東京学芸大学 高校探究プロジェクト

探究の共創 in Summer 2026

バーチャルポスターセッション

2026年7月20日(月・祝)
14:00～16:30開催

ポスター発表：最大80件
定員：300名(発表者含む)
1校あたりの発表数は最大8件とします。

各々の探究の「いま」を持ち寄り、対話を通して、新たな視点や価値観と出会い、次の一歩へ!!

プログラム

- 13:30 受付・操作確認
- 14:00 オープニング
- 14:10 開会宣言
- 14:20 ポスターセッション&交流(6サイクル)
- 16:30 クロージング

※各発表の「探究の共創 in Summer」とあわせてご参加いただくことをお求めします。
なお、in Summerのポスター発表の申込みが本数超過の場合は、in Summerの発表を優先し、超過分は別途となります。

東京学芸大学 高校探究プロジェクト
g-tanq@ml.u-gakugei.ac.jp



対話を通して、新たな視点や価値観と出会い、次の一歩へ!!

毎年大好評のバーチャルポスターセッションを「探究の共創 in Summer 2026」として開催します!

ゲームのような画面でアバターを操作して、交流を楽しむことができるオンラインサービスを使って行います。

高校生による発表は、個人発表、グループ発表のいずれでもOKです。形態はポスター発表のみとなります。

詳細は以下Webページより、ご確認ください。

<https://g-tanq.jp/co-creation2026>

